**エシカルメディア　ルールブック**

**【エシカルメディアの目的】**

エシカルメディアは、お客様、学生、メディアに知ってもらうために記事を書く。

社員の教育に活用する。（場合によっては内定者も含む。）

イーバリューらしさを発信するため、現時点では検索狙いの記事の優先度は低い。

**【作成時間】**

初稿提出（骨子・取材・執筆）まで５～６時間が理想。

かかっても、７～８時間まで！

修正は30分～1時間。

**【表記方法】**

**●英数字と漢数字**

数値の表記は、横書き文章の場合には半角数字を使用。ただし「訓読み数字」「順序数」「副詞や形容詞」の場合は漢字を使う。

例：１．一つ、二つ（訓読み）

２．一番目、二番目（順序）

３．第一に、二番目に（形容詞）

**●句読点**

・タイトルの句読点

タイトルには句読点を付けない。ただし、タイトルが複数の文に渡る場合、途中の文には句点をつける。

例：日経平均反発、終値32円高の2万3278円

東大生の挑戦。CO2回収で温暖化防止へ

・カギ括弧前後の句読点

カギ括弧の前後に句読点はつけない。

・カギ括弧内の句点

カギ括弧内で文章が完結する場合は句点を付ける

例：彼は「おはようございます。」と言った。

・文末に丸括弧がある場合の句点

丸括弧が直前の言葉を補足する場合には、丸括弧の外に句点を打つ。文全体にかかる場合には丸括弧の中に句点を打つ。

例：今日は歩いて出かけた（兄と）。

今日は歩いて出かけた。（昨日は走って出かけた。）

**●漢字・ひらがな**

・「一つひとつ」「一人ひとり」等の繰り返す表現

「漢字＋ひらがな」で表記する。

・形式名詞はひらがな表記

形式名詞とは「いただく」「そのため」など、すでに本来の意味を失っている名詞のこと。

例：このうち（内）、いただく（頂く）、そのとき（時）、そのため（為）、このとおり（通り）、

　　ください（下さい）

・補助動詞、補助形容詞はひらがな表記

例：調べてみる（見る）、行ってくる（来る）、行きたくない（無い）

**●括弧の使い分け**

・カギ括弧「」は、発言・引用・まわりの文からあえて分離させる際に使用する。

例：文章中の会話、心の声

　　インタビュー形式

・二重カギ括弧『』は、カッコの中のカギ括弧や、本・映画などのメディア名の表記に使用する。

例：彼は「僕はそう思ったけれど、山田くんが『自分でやる』と言ったんだ」と話した。

**●ミズノの表記**

基本的に「ミズノ」の表記はしない。

例：入社時が株式会社ミズノであっても、イーバリュー株式会社と表記。

話の流れ上、必要な場合は「イーバリューの前身（であるミズノ）」等と表記。

**●WordPress化**

・重要な部分は薄いオレンジ色のマーカーを引く。執筆者が原稿作成時にハッチングする。

**●写真撮影**

・スタッフ紹介のメインビジュアルは、カメラ目線で正面から撮る。

・メインビジュアルにはマスク着用の写真は使用しない。

・執筆者が責任者として品質をチェック（背景の映り込み、目線、表情、シチュエーション）

**【事例掲載】**

・内容素材が充実している事例に関してはコーポレートサイトに載せる。

・担当コンサルタントへのインタビューも入れる。

・内容が簡単で画像の素材が不十分な場合は、環境コンサル事例に関しては環境サイトに載せる。

・エシカルメディアとしてアップし、６個以上の事例ができたタイミングで事例ページの追加を検討する。（まずは数を確保する。）

**【公開方法】**

・公開のお知らせは、執筆担当者がイーバリューグループにアップする。読みたくなるような投げかけや＠での指名をする。

・内定者グループへは渡山より指示があったものをアップする

**エシカルメディア　10のポイント**

**1.エシカルポイントを意識しよう！**

エシカルメディアのテーマは「真っ当さを追求し、発信することで、世の中に新基準を生み出していく」。

そこで意識すべきは、エシカルポイント＝「“真っ当” かつ “NEW STANDARD” な部分」です。記事を書く際は、どこがエシカルポイントなのかをよく意識してみましょう。

ex.

・イーバリューでしか言えないことはどこか？（他社では言えないことは？）

・自分たちの強みってなんだろう？

・自分たちならではのエピソードってなんだろう？

※日頃から自分たちを俯瞰して見つめていることが大事。

**2.「外部の目」を意識しよう！**

自分たちで記事を書いていると、どうしても自分たちの話に終始してしまったり、内輪の話に止まってしまったりします。

エシカルメディアはあくまで “外部に向けた記事” です。

常に外部の目を気にしながら、ライティングやチェックを行いましょう。

ex.

・読み手がどう思うか、どう感じるか？（例えば、友人、お客さんの目線で）

・記事を読んだ結果、他の企業が活かしてくれるか？

・社内用語をそのまま使っていないか？（検索してみる）

**3.いちばん伝えたいことを定めよう！**

ライティングの際に、いろいろと書くことによって「なにを伝えたいのか」がブレるときがあります。

今一度、伝えたいことを整理してみましょう。時には、いろいろと削ぎ落として考えることも大事。イメージは、若手芸人の「顔と名前だけでも覚えて帰ってください」。

ex.

・この記事（この段落）で、一番伝えたいことはなにか？

・端的で言ってみると、なんだろう？（社長が熱かったから入社を決めた、など）

**4. ときには自分を疑ってみよう。**

なぜ、を繰り返すことで本質に近づいていく。

これは取材の鉄則ですが、ライティングをするときにも大切です。

特にチェックをする際には、いかに他人の目になって読むか、時には自分で書いたものにも疑う、といったことも必要。いい意味で、疑い深くなっていきましょう。

ex.

・本当にそうだろうか？と自問自答してみる。

・時間をあけて確認してみる。（翌日など）

・場所や環境を変えて確認してみる。

**5. 修正のときほど、丁寧に。**

実は初稿よりも赤字の修正の方が難しかったりするもの。

一部分を変えると、全体の流れが変わったり、前後の整合性がとれなくなったりすることも多々あります。

「ここだけ変えれば大丈夫」と思い込まず、他へ影響がないかどうか、広い視野で丁寧に修正しましょう。

**6. 接続詞を、使いこなそう。**

記事をチェックしていると「よく読むと、実は前後がつながっていない」というケースも多々あったかと思います。

読み手が気持ちよく読むためには、記事には “流れ” を意識する必要があります。

接続詞を使うことで、前後のつながりを持たせたり、正しくつながっているかの確認になったりします。

なんでもかんでも接続詞を使う必要はありませんが、効果的に使っていきましょう。

ex.

・だから、さらに、そして、したがって、その結果、加えて、このように～

・しかし、ただし、でも、とは言え、ところが、にもかかわらず～

・例えば、一つ目は、一方で～

**7. チェックは、鳥の目→魚の目→虫の目。**

記事をチェックする際は、最初から誤字脱字などを拾うと、かなり時間がかかってしまいます。大きな部分から細かい部分へとチェックしましょう。

・鳥の目：記事のテーマ・言いたいことが明確か？全体を俯瞰してみましょう。

・魚の目：構成に問題がないか？流れを確認しましょう。

・虫の目：各段落で内容が OK か？表現や誤字脱が問題ないか？細かく確認しましょう。

**8. たまには型を破ってみよう。**

取材やライティングに慣れてくると、どうしても型にはまった構成になったり、紋切り型の表現になってしまったりします。

「守破離」という言葉の通り、まずは型を守ることが大事ですが、肝心なのは、そこに安住しないこと。「本当にこの形でよかったっけ？」「もっと伝わる表現や構成があるのでは？」と考えてみましょう。

また「こんな表現方法もあるんだ」と日頃からアンテナを張っていろいろなものに触れることも必要です。

**9. ルールを決めよう。**

記事が増えていくと、他の記事と整合性をとる必要もでてきます。

例えば、「ミズノでの話」だったり、「ひらがな or 漢字」といった細かないものまで。

記事が増えれば増えるほど、必要性がでてくるので、今後はどこかでルールを決めたり、ルールブックとして記載しておくことも大切だと思います。

**10. 他の業務に活かそう。**

エシカルメディアの編集会議で伝えたことは、なにも記事を書くときだけのものではありません。

企画書を作る、動画を作る、お客様へのメール、などなどいろいろなことにも通じる考え方だと思います。

この場で学んだことを、この場限りとするのではなく、ぜひいろんな業務で活かしてください。